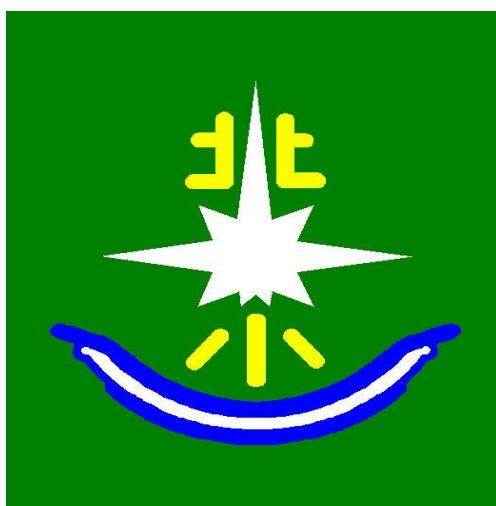


令和8年度

戸田市立新曾北小学校の教職員に関する  
業務量管理・健康確保措置実施計画



戸田市立新曾北小学校

# 戸田市立新曾北小学校 教職員業務量管理・健康確保措置実施計画

令和8年4月1日

## 1. 計画策定の趣旨

本計画は、給特法第8条に基づき、本校職員の心身の健康を保持し、教育活動の質を維持・向上させ、持続可能な教育体制を構築するために策定する。

教職員が心身ともに健康で、児童に対し笑顔で向き合える環境を構築するため、業務量の適切な管理と組織的なサポート体制を確立する。本校の経営方針である「だれもが生き生きと主体的に学ぶ学校」の実現には、まず教職員自身が心身ともに健康であり、ウェルビーイングが保たれていることが不可欠である。本校独自の「生き方改革」を推進し、組織として業務量を管理・改善する。

## 2. 教職員の現状

本校の時間外在校時間平均調査の結果は以下のとおりである。昨年に比べ、年間を通して時間外在校時間が減りつつあるが、年度当初や行事が重なる月においては、時間外在校時間が45時間を超えるケースも見られる。また、「ストレスチェック分析結果」では「メンバーの強みを伸ばしたり、やりがいやモチベーションを高めたりすることでさらなる職場活性化を目指す活動が期待される」との総評が示されている。


### ▶時間外在校時間平均の前年比較

令和7年度と令和6年度の比較





4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
R6	34:38	35:25	28:21	25:21	8:50	28:43	34:33	24:27	24:43	25:46
R7	26:52	25:50	25:11	20:11	7:02	27:37	30:49	20:30	21:13	20:24
前年比較	-7:46	-9:35	-3:10	-5:10	-1:48	-1:06	-3:44	-3:57	-3:30	-5:22

### 3. 令和8年度 新曽北小学校教育プラン



## 令和8年度 新曽北小学校教育プラン【概要版】

**学校教育目標** 英知 友愛 剛健 寛容  
かしこく なかよく たくましく ひろい心で

**学校経営方針** だれにも安心できる居場所があり、だれもが生き活きと主体的に学ぶ学校

**重点方針1 誰一人取り残されない教育の推進**

① 子供を主語にした学びの実現に向けた授業改善・校内研修  
【学ぶ楽しさ（わかるできる伸びる）が実感できる日々の授業実践】

② 生徒指導の充実（自己有用感・自己肯定感を高め、自己指導能力を育成）  
【見逃さない・見捨てない・見て見ぬふりをしない（見過ごさない）】

③ 心身ともに健康な児童の育成

④ 人権教育・特別支援教育の充実

**重点方針2 共生社会の担い手を育む  
インクルーシブ教育の推進**

⑤ 多様な子供たちがいることを前提とした支援の充実

⑥ 教職員の自分の時間の充実

⑦ チーム北小で互いがフォロー

⑧ 主体的に業務改善

真ん中に据える価値観

「スーツケース」から「ふろしき」へ

「どうした?」「なにかあった?」を合言葉に

子供の「いまここ」を大切に

**重点方針3**

働き方改革・やりがい改革

→生き方改革-豊かな人生を築く-

**目指す10の教師像**

**○子供の見方、学級経営に関すること**

①子供に寄り添い、子供のことをよく見る教師  
 ②児童の活動・困り方やつまづきから学ぶ教師  
 ③失敗におおらかである教師  
 ④子供のすることには理由があると想像力を働かせる教師

**○児童の学びに関すること**

⑤教育の目的と手段を考えられる教師  
 ⑥プレゼンする学び、正解が一つに定まらない学びをデザインできる教師  
 ⑦自らの指導を振り返り、変えられる教師

**○職場環境に関すること**

⑧互いをリスペクトできる教師  
 ⑨学び続ける教師  
 ⑩自らの健康を考えられる教師

### 4. 本校の目指す姿（新曽北小ビジョンとの連動）

- 「スーツケースからふろしきへ」  
 固定的・前例踏襲的な働き方を見直し、柔軟で効率的な校務運営を目指す。
- 「チーム北小」による補完  
 誰か一人の負担に偏らせず、互いをリフレッシュ・リスペクトできる職場文化を醸成する。
- 「生き方改革」  
 重点方針3 働き方改革→やりがい改革→生き方改革 ～豊かな人生を築く～
  - 1 自分の時間を充実させよう  
 「自分のことも大事にできる」「自分の子供もしっかり育てられる仕事にする」  
 それがひいては、教員の魅力や授業や雑談の種となり、児童のためにもなる。
  - 2 チーム北小で、互いがフォロー  
 個業となっていないか、個人に負担が集中していないか、時には学年、ブロック、校務分掌を越えてフォローし合う教職員集団をめざす。

### 3 主体的に業務改善

「子供のためになるから」を言い始めると何でも大事になり、限りはない。「やらなくてはならないこと」と「やった方がいいこと」、時間対効果、より優先度の高いことなはいか、といった課題意識をもって業務改善を主体的に進める。

本校が掲げる重点方針3「働き方改革・やりがい改革」や、目指す教師像⑩「自らの健康を考えられる教師」をもとに、教職員が「自らの時間の充実」を図ることで、豊かな人生を築き、それが児童への質の高い教育に還元される循環を作る。

### 5. 業務量管理の目標（ガイドラインの遵守）

戸田市教育委員会の計画に基づき、以下の数値を厳守すべき上限として管理する。

- 月当たりの時間外在校等時間： 45 時間以内
  - 年間の時間外在校等時間： 360 時間以内
- ※これを超えることが見込まれる職員に対しては、教頭による面談および業務の再配分を即座に実施する。
- **客観的な把握**： 勤怠管理システム(ICカード等)の記録を週単位で教頭が確認し、超過傾向にある職員には月の半ば等、早期に声掛けを行う。

### 6. 業務量管理・削減に向けた具体的措置

戸田市教育委員会の「4つの視点」に基づき、本校では以下の取組を重点化する。

視点（市計画）	本校の具体的なアクション（新曾北小モデル）
①業務量の適切な管理	<ul style="list-style-type: none"><li>• 教職員に対しても「どうした?」「なにかあった?」を合言葉に、業務過多の教職員の早期発見に努める。</li><li>• 週案・行事計画等の作成において、生成AIやICTを積極的に活用し、事務作業時間を短縮する。</li></ul>
②業務の改善・効率化（DX推進）	<ul style="list-style-type: none"><li>• 会議資料や研修資料のペーパーレス化を推進し、調査等の回答をオンライン上での回答とする。</li><li>• 職員会議の短縮（資料の事前共有、C4th等での連絡徹底）</li><li>• 生成AI等の活用による教材作成・事務作業の補助</li><li>• <b>スクラップ&amp;ビルドの徹底</b> 前年度踏襲を疑い、目的が不明確な行事準備や会議を精選する。</li><li>• 職員会議の短縮（原則30分）と、meet等を活用した非同期コミュニケーションへの移行。</li></ul>
③健康確保措置	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「定時退勤日」「リフレッシュデー」の形骸化防止 管理職による退勤勧奨と、学年主任を通じた定時退勤の相互フォロー。</li><li>• 休憩時間の確実な確保の実施と見届け。</li></ul>

視点（市計画）	本校の具体的なアクション（新曽北小モデル）
④職場環境の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的安全性の高い職場作り。失敗におおらかな文化を醸成し、一人で抱え込まない体制（チーム北小）を強化する。</li> <li>・「カエル会議」により、「困りごと」を起点に議論し、解決策を自分たちで決定、実践することで当事者意識を高め、働きがいのある職場づくりを行っていく。</li> </ul>

## 7. 健康確保措置と面接指導

長時間勤務や心身の不調の兆候が見られる職員に対し、以下のプロセスを運用する。

1. **アラート設定**：月の時間外が30時間を超えた時点で、教頭が状況把握のヒアリングを実施。
2. **面接指導**：月45時間を超えることが見込まれる場合、または本人から希望がある場合は、校長による面接を実施し、業務の再配分（分掌の調整等）を即座に検討する。
3. **専門家との連携**：市教委が提供する産業医面談（前期・後期）やメンタルヘルス相談窓口への接続をスムーズに行う。

## 8. 外部人材の活用・地域の力を学校へ

「教師でなければできない業務」に注力できる環境を整えるため、地域社会や外部専門人材との連携・協働を推進する。これは単なる負担軽減ではなく、地域の多様な知見を教育活動に取り入れることで、子供たちの学びを豊かにし、持続可能な学校経営を実現することを目的とする。学校運営協議会を基盤とし、学校応援コーディネーターとの連絡調整を密にするとともに、「Hi!」アプリを積極的に活用し、学校応援団や地域の方々による授業支援を積極的に取り入れていく。

### ▶学校応援団・地域人材の活用

#### 学校応援アプリ「Hi!」の導入

運営元である学校や学校応援団、PTAから募集されている活動について、気軽に応募可能なプラットフォームアプリです。登録いただくと、以下の流れで教育活動にボランティアとして協力することができます。



- ・ミシン・調理実習お手伝い
- ・町探検グループ付き添い
- ・書初め準備等お手伝い
- ・英語コミュニケーション

**延べ114名参加**

※その他、PTA活動でも活用  
(1年生下校見守り活動など)

登録者**227名** (本日時点)

#### 【5年生 ミシンで楽しくソーイング】

5年生は家庭科の実習で使うエプロン作りに挑戦しています。初めてミシンを使うのでまずはケースからミシンを取り出し、から縫いをしたり、糸の通し方を覚えたりしました。今回は各クラス、多くのミシンボランティアの方々にお手伝いいただき、子供たちも安心して初めてのミシンの授業に取り組むことができました。

安全に楽しく、自分だけの特別なエプロンができあがるのを楽しみにしている5年生です。ご支援いただきましたミシンボランティアの皆様、ありがとうございました。

10月には6年生のミシンボランティアの募集も行いますので「Hi!」アプリでぜひお申し込みください。



令和8年2月25日現在

## 9. PDCA サイクルと評価

- **定性的評価**： 本校のロジックモデルにある「10の教師像」のうち、⑤（自分の時間の充実）⑧（リスペクト）⑩（自らの健康）の達成度を、年度末の職員アンケートで測定する。
- **定量的評価**： 時間外在校等時間の推移を学校運営委員会で共有し、次年度の校務分掌や行事計画の改善に反映させる。